

## 博多駅運転業務の効率化反対 朝夕の通勤時間帯はホームが人で 溢れかえる。ドア挟み等のリスクで 車掌の責任増大。輸送混乱時は作 業指示も混乱し、さらに混乱拡大。 国労は博多駅の輸送主任の廃止に 反対です！

一体何が「効率的」なのか。ご存知の方も多いと思いますが、会社は3月のダイヤ改正から、博多駅の輸送主任を廃止することを提案しています。何と団体交渉においては、「安全上の問題はない」と言い切ったとのこと。とんでもない会社です。私たち現場の社員からすると、「安全上、問題しかない」のですが、ここまで労使間の談義がかみ合わないのは、会社としては、「コスト削減」の事しか頭になく、何かが起きても全て現場に丸投げすれば良いだろうという考え。つまり、安全上の問題など端から眼中になく、いわば物理的に存在しないという状態。それゆえ、恥も外聞もなく「ない」と言い切れるわけです。「安全は創るもの」。一体どの口が言っているのか。会社は、コロナ禍で「存続の危機」に陥っているらしく、それを乗り切るために、奇妙な横文字を掲げ、独断と偏見でさまざまな「無駄(コスト)」を省いているようですが、さすがに今回は度を越しています。あれだけ利用者の多い博多駅で未だ大きな事故が起きていないのは、駅の輸送主任をはじめとした現場の社員による弛まぬ努力の成果であるのは言うまでもありません。社員が安全を守るために奮闘する一方で、会社はというと、現場の要員を増やす等、社員が働きやすい環境を整える義務を放棄するばかりでなく、コロナとグルになって私たちが創り上げた「安全」を破壊するといった蛮行に走っているわけだから、恩を仇で返しているようなもの。一日でも早く安心して生活が出来るよう会社自身が機能していないからもう呆れるしかなく、その無責任ぶりはもはや「罪」のレベル。そして、私たちも考えなければなりません。会社の暴走に歯止めをかけるのは、現場で働く社員の声しかなく、「問題なし」では済まされないことくらい誰もが分かっているはず。「沈黙は了解なり」というフレーズはあまりに有名ですが、「乗らない人」が机の上で思いついたような愚策にやすやすと従うか、現場の目線で声を上げて阻止しようと闘うは、日々の業務に対する姿勢の問題でもあります。